

2025年度 創価女子短期大学 自己点検報告書

I 教育・研究

本年度は中期計画の最終年度であり、社会で輝く女性の育成を目指した教育内容・制度の充実のために改革を進めた。計画に定めた「輝く女性育成推進」と「SDGs推進」の二つの推進軸についてさまざまな取組を実施した。「Next創短！2024」の3つの柱についてもさらなる推進を図った。

(1) カリキュラム改革

英語特別プログラム（E-Swans）、ビジネス特設クラスに加え、開設2年目となる「ホテル・航空業界特設クラス」では、2年生向けの科目が新たにスタートした。ホテルや航空業界に必要な専門的知識、マナーやサービス実務能力の修得を目指す科目、業界に特化したホスピタリティ&サービス英語科目を実施した。さらに特設クラス受講生の進路就職への取り組みが始まるため、志望する進路就職に進めるように教職員がさまざまなサポートを行なった。また昨年に引き続き、都内にある日本屈指のホテル（ホテル椿山荘東京）で実践的な経験を積むインターンシップを実施し単位認定を行った。

昨年度（2024年度）、他大学での修得単位を本学の単位として認める制度を整え、本年度より同制度を施行した。同制度に基づき、創価大学通信教育部の科目履修を行なった学生に対して、申請により単位認定を行うことができた。

また、新たに放送大学との単位互換制度を設け、来年度から実施することになった。

教育面で二つの柱として掲げた「輝く女性育成」と「SDGs」の推進については、この一年で様々な取組を実施することができた。

「輝く女性育成」推進では、短大開学40周年記念企画セミナーとして、6月に、創価大学ダイバーシティ・インクルージョン推進センターとの共催で講師として、「日経 xwoman（クロスウーマン）」の創刊者・元総編集長でメディアプロデューサーの羽生祥子氏を迎え、「なぜダイバーシティが社会・組織の成長に必要なのか ～“性別ガチャ”を克服して生き、働くために～」とのテーマで開催した。

11月にはNPO法人ホロコースト教育資料センター 石岡 史子理事長を講師に迎え、「アウシュヴィッツからはじまる問いと出会い ―「ハンナのかばん」と歩んだ25年から―」とのテーマで開催した。

また、『3.8国際女性デー』を記念するイベント「国際女性デー企画2026 ～女性(あなた)が輝く未来を拓く～」を3/4に開催し、企画①：世界の「国際女性デー」プレゼン&クイズ大会、企画②：対話会&ミモザの花に思いを綴ろう、など女性が輝く社会について、学び語らいを進めた。

「SDGs」推進についてはワークショップを中心に「創価女子短期大学×SDGs」の3年目として様々な取組を実施した。

5月には東京富士美術館でSDGs勉強会を開催。6月には東京富士美術館の柿の木プロジェクトと協働して、「環境と美術の視点から考えるSDGs出張展覧会」に参加。また、創価大学つばさ保育所でSDGs祭りを開催。さらに7月には本年で4回目となる「サステナブルな七夕祭り」を開催した。

夏には明星大学でSDGsビジネスに関する勉強会を行い、11月につばさ保育所との交流会を開催し、

一年を締めくくることができた。

(2) 海外語学研修と資格取得教育の充実

海外語学研修については、アメリカ創価大学短期留学プログラム、フィリピン・ミリアムカレッジ夏季語学研修、オタゴ大学春季語学研修全てを現地で実施した。参加した学生からも楽しく学び、力をつけることができたとの声を聴くことができた。

昨年度に引き続き、さらに実りのある研修となるよう、英語力の向上に加えて、国際ビジネス学科の専門的な学びとの連動性を確保できるよう努めた。また、英語力がさらに身につくよう、海外語学研修の前後で履修すべき科目を明確にし、連動した学びを進めた。

英語教育の充実については、TOEIC-IP 試験を中心に英語能力の向上を図ってきた。英語特別プログラムの40期生(2年生)の卒業時での最終結果は平均472.5で、730点を超えた学生は1名、600点以上が5名、最高点は755点であった。一方、41期生(1年生)では、平均588.3と1年次ですでに高い結果を残しており、730点を超えた学生が3名、600点以上が13名、最高点は845点であった。来年度の伸びがさらに期待される。

		入学時	1年次7月	1年次1月	2年次7月	卒業時
37期 (2021年度入学生)	国際ビジネス	332.6	370.4	402.4	359.4	-
	英語特別プログラム(E-Swans)	509.0	515.8	592.6	555.6	619.0
38期 (2022年度入学生)	国際ビジネス	268.4	314.2	336.6	375.4	-
	英語特別プログラム(E-Swans)	374.5	419.5	513.5	518.8	576.3
39期 (2023年度入学生)	国際ビジネス	272.3	334.9	369.3	396.6	-
	英語特別プログラム(E-Swans)	396.5	445.3	508.1	552.3	558.8
40期 (2024年度入学生)	国際ビジネス	253.4	314.9	356.4	353.1	-
	英語特別プログラム(E-Swans)	310.3	400.0	458.7	457.8	472.5
41期 (2025年度入学生)	国際ビジネス	276.3	356.1	380.6		
	英語特別プログラム(E-Swans)	401.8	533.6	588.3		

資格取得教育の充実については、昨年度よりスタートした「資格 de キャリア」が2年目となり、社会のニーズに合わせた資格取得の推進を図ることができた。

新設した「医療事務」「調剤薬局事務」の資格講座では、それぞれ17名、8名が合格し、受講学生の92.6%が資格を取得した。サービス接遇検定では準1級17名、2級に8名。色彩検定では3級に10名が合格するなど昨年度を上回る結果を出すことができた。

カリキュラム改革の一つとしてFP初級、FP中級の授業科目を新設したが、3年目と

なる本年度は、ファイナンシャルプランナーでも2級1名、3級16名の合格者を出すことができた。

これらの結果に基づき、40期生(2年生)の卒業時点での上級資格取得者は16名で、5人に一人が上級資格を取得したことになった。本年度は個人表彰として、ビジネス実務検定協会からビジネス文書

検定名	級	2025年度		2024年度		昨年比	備考
		春学期 合格者数	秋学期 合格者数	年間 合格者数	前年度 合格者数		
秘書検定	1級	0	0	0	0	-	筆記合格 数:2名, 数:5名
	準1	2	4	6	12	-6	
	2級	8	19	27	14	13	
	3級	0	1	1	0	-	
ビジネス文書検定	1級	2	3	5	7	-2	
	2級	6	24	30	20	10	
	3級	31	0	31	12	19	
サービス接遇	準1	0	17	17	9	8	内9名ロールプレイング合格 *準1級(面接)のみ合格(記載不適合)
	2級	0	8	8	9	-1	
全経簿記検定	1級会計	1	2	3	0	3	1級合格 数:1名, 数:1名
	1級工業	1	0	1	3	-2	
	2級商業	0	1	1	2	-1	
	2級工業	3	0	3	2	1	
	3級	14	0	14	6	8	
情報活用検定	2級	11	0	11	9	2	
	ITパスポート	0	3	3	5	-2	
ファイナンシャルプランナー	3級	9	7	16	7	9	
	2級	1	0	1	1	0	
色彩検定	3級	10	0	10	10	0	
調剤薬局事務		8	0	8	4	4	
医療事務		0	17	17	12	5	
TOEIC(公式)600点以上		0	8	8	5	3	
合計		107	114	221	149	-	

検定で1級の成績最上位者に贈られる文部科学大臣賞を1名が受賞。さらに優秀賞を1名が受賞するなど素晴らしい結果となった。

また、本年度より短大白鳥会在学生支援による資格試験合格者に対する奨励金制度を開始した。40期生（2年生）34名、41期生（1年生）38名、計72名の学生に97件の支給をすることができた。

（3）教員の研究力の向上

本年度は紀要56号を発刊したほか、教員の研究活動の活性化をはかり、研究環境の整備と外部研究資金獲得への取組を進めた。特にAI活用ワーキンググループでは若手教員を中心に活発な議論が進められ、実施されたさまざまな取組とその結果を論文として紀要に掲載された。

その他、成績不良者の対応については、2019年度秋学期よりGPAが1.0を下回る学生に対して、担当の教職員が面談によるサポートを実施し、状況の確認を行い報告する体制を整えてきた。

本年度は、2年生の人数と割合が増加したが、成績不振の背景には、メンタル面、また経済面、家族の問題等がある。出席状況、生活態度など、教員、職員、保健室、学生相談室等が緊密な連携を進め、保護者とも連絡を取り、成績不振や長期欠席につながらぬような取組を一層充実させていくことが必要である。

II 学生支援

2025年度は、以下の3点を中期計画の「学生支援」として掲げて、取組を実施した。

（1）SLS(スチューデント・ライフ・サポート) セミナーの充実

課外で実施してきた「SLS(スチューデント・ライフ・サポート) セミナー」について、内容等のさらなる検討を進め、多くの短大生が豊かな教養を身に着けられるよう充実・発展させてきた。

主な内容は、①短大生活プランニングセミナー（卒業生によるパネルディスカッション）、②女性のマナー講座（ホテル・テーブル・社会生活・ビジネス）、③芸術・美術講座、④女性のための健康セミナー（身体的健康・メンタルヘルス・健康レシピ）⑤日本文化の作法等である。

本年度も、内容に加え講師の充実を図り、有意義なセミナーを開催することができた。また「輝く女性育成推進企画セミナー」との共催で、短大生だけでなく、短大卒業生にもオンライン等を利用して参加できる機会を提供することができた。

（2）寮生活支援

寮生一人ひとりに対する支援の充実のため、教職員による定期的な懇談会を開催し、残寮生と意見交換をしながら寮生の支援を進めた。本年度はコロナ対応の時期から続いてきた一部屋1名体制を、一部屋2名の体制に戻したこともあり、数々の課題も生まれたが、学生部長と担当者、学生の寮役員で協議をしながら概ね良好な寮運営とすることができた。

なお、41期生については在寮できる期間を延長し、2年間、寮生活を送ることができるように変更し

た。

(3) 障害学生の支援体制の整備とサポート

2022年度に開設した「障害学生支援室」を中心に、障害を持つ学生の修学および学生生活についての対応を行った。本年度も授業における合理的配慮の申請を受け、相談の上、適切な支援に努めた。合理的配慮の申請状況はメンタル面を中心に年々増加しており、今後もきめ細かい対応が望まれる。

年度末に学生相談室年次報告会を開催し、障害学生を含めた学生の状況について確認する場を設け、教員、職員としての対応のあり方について情報共有を行なった。

III 進路・就職

進路支援については、キャリア支援推進委員会を中心に、多様な進路（進学・就職・留学など）をサポートできるきめ細かな支援体制の充実を図ってきた。とくに、企業就職を目指す学生のために設けた「創短就勝塾」では、就職希望者へのサポートを実施し、OGや就職支援スタッフとの交流を通し、自信を持って就職活動に臨める細やかな支援を行ってきた。また、進路担当の職員とゼミナール担当教員の連携をより深める体制を整えてきた。

創価大学への推薦編入学制度について、より多くの学生が希望できるよう2025年度より英語(TOEIC)基準の見直しを行なった。

本年度の進路状況としては、就職内定率は86.05%、4年制大学への編入も29.73%で22名という結果となった。「創短就勝塾」は、每期、就職決定100%をほぼ達成している。

明年度で本学の卒業生は概ね最後となる予定であるが、短大教育の総仕上げとして、明年度も地域・社会の各分野で活躍する人材を育み輩出できるようキャリア支援の一層の充実を図っていく。具体的には、インターンシップの推進、地方Uターン支援の強化、他大学への編入学の支援に取り組んでいく。